

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに当社グループ第85期（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）の報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当期における当社グループを取り巻く事業環境は、国内では円安や株価の上昇、企業の設備投資に持ち直しの動きが出るなど景気回復の兆しが見られましたものの、海外では新興国における景気減速や東南アジア諸国の通貨不安懸念、さらには、エレクトロニクス分野における低価格品との競争激化など、厳しい状況が続きました。

このような状況のなか、当期は、昨年4月よりスタートしました中期事業計画（2013-2015）に掲げた目標の達成に向け、グループ一丸となって原価率低減と固定費の削減に注力し、損益分岐点の引き下げに努めてまいりました。

事業拡大の施策としては、当社グループが保有する電池技術と回路技術を融合したシナジー製品の開発・量産化ならびに市場のマーケティング活動にもとづく新規顧客の獲得に注力いたしました。リチウムイオンキャパシタ事業では、旭化成FDKエナジーデバイス株式会社において新製品の開発・量産化に向けた努力を重ねました。

さらに将来コストの削減と長期に安定的な退職給付制度の運営を目的として、退職金・年金制度の改定を実施いたしました。

この結果、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益において前期を大きく上回るとともに、5期連続で当期純利益の黒字化を達成することができました。これまで当社グループが一丸となって取り組んでまいりました「環境変化に柔軟に対応できる会社」に変革できつつあるものと思っております。

当期の当社グループ全体の売上高につきましては、前期に比べ30億76百万円増の766億24百万円となりました。

損益面につきましては、各施策の遂行による原価率低減とともに、売上の増加ならびに円安効果が加わり、営業利益は前期に比べ19億74百万円の大幅な改善により14億48百万円となりました。経常利益は前

期に比べ12億96百万円増の14億71百万円、当期純利益は前期に比べ6億7百万円増の10億60百万円となりました。

配当につきましては、未だ欠損状態でありますので、誠に遺憾ではございますが、見送らせていただきたいと存じます。株主の皆様には誠に申し訳なく、心よりお詫び申し上げます。

次に平成26年度の展望について申し上げます。日本国内では消費税率引き上げの影響を受け、一時的に需要が減退するものの、国内外の景気は総じて緩やかに回復していくものと予想されます。

当社グループは、時代に求められる高効率で安全な製品提供のためシナジー製品のさらなる拡充とスマートグリッドや車載をはじめとした将来成長が期待される市場への積極的な新製品投入を押し進めてまいります。

直近の具体的な施策としては、本年5月に発表したアルカリ乾電池ならびにニッケル水素充電電池などの新製品を国内外で拡販することにより市場シェアの拡大を図ってまいります。

また、前期より成果に結びついている各施策を引き続き遂行するとともに既存事業の収益基盤をさらに強化し、成長戦略を確実に成果に結びつけ、アライアンスについても対応してまいります。

FDKはこれからも材料、素材の持つ無限の潜在力を引き出し、FDKグループの技術を結集して安心で安全な価値ある製品をお客様にご提供し続けることにより、“様々なかたちで社会に貢献できるエネルギーマネジメントメーカー”を目指してまいります。

今後とも引き続きFDKグループをご支援賜りますようお願い申し上げます。

平成26年6月



代表取締役社長 高橋 重正